

先端 IT 活用推進コンソーシアム
(AITC)

第 四 回 総 会

議 案 書

2013 年 10 月 4 日(金)

於 リコーIT ソリューションズ株式会社

目 次

第1号議案 第3期(2012年度)活動報告の件	
・ 活動実績	1-1
第2号議案 第3期(2012年度)収支報告の件	
・ 収支計算書.....	2-1
・ 貸借対照表・財産目録.....	2-2
・ 監査報告書.....	2-3
第3号議案 第4期(2013年度)活動計画承認の件	
・ 本会の活動・運営方針.....	3-1
・ 第4期(2013年度)の活動計画	3-1
第4号議案 第4期(2013年度)予算計画承認の件	
・ 予算計画.....	4-1
第5号議案 第4期(2013年度)理事/監事選任の件	
・ 役員構成.....	5-1
付属資料	
・ 第4期(2013年度)活動のご紹介	i-1
～部会および協働プロジェクト(Project LA)の活動計画～	

注:AITCにおける年度は下記の通りです。

第1期(2010年度):2010年9月8日～2011年8月31日

第2期(2011年度):2011年9月1日～2012年8月31日

第3期(2012年度):2012年9月1日～2013年8月31日

今期⇒**第4期(2013年度):2013年9月1日～2014年8月31日**

第5期(2014年度):2014年9月1日～2015年8月31日

第6期(2015年度):2015年9月1日～2016年8月31日

第 1 号議案

第 3 期(2012 年度)活動報告の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

活動実績のご報告にあたって

AITC は、2010 年 9 月に XML コンソーシアムの理念や活動方針を継承する形で設立されました。

当初は、これからのビジネスと社会の基盤として活用されていくであろう先端 IT 分野を選択することから始め、まずは技術者の育成を目指し、AITC が技術研鑽の場となり、技術者同士の切磋琢磨の場となり、人的な交流の場になるように注力してまいりました。あれから 3 年間の経過し、各部会の活動は確実に充実し、協働プロジェクトの試みも着実に進展し、これまでの地道な活動の積み重ねが実を結びつつあると感じております。

因みに、本年 8 月末に開催しました「AITC Week」で第 3 期(2012 年度)の活動成果発表をお聴きになられた参加者からは、「AITC の活動が形になってきた」、「これからの方向が見えてきた」等のご評価をいただきました。

第 3 期の活動実績をまとめるにあたり、設立時に設定した会期 3 年間で活動全般が一定のレベルに達したこと、会期延長に伴う次の 3 年間にに向けた基盤ができたことをご報告し、改めて皆様のご支援、ご協力に御礼申し上げます。なお、第 3 期(2012 年度)の活動実績の詳細につきましては、下記をご参照くださるようお願いいたします。

1. 活動実績

1. 会員数 : 設立時の目標(30 会員)を超えてはいるものの、ほぼ 50 会員前後で推移しています。
可能な限り活動をオープンにし、成果を広く伝播することで、会員増強に一層努めていく必要があります。

<推移>	2010 年 09 月 08 日(設立時)	会員:21 会員(20 会員、1 特別会員)
	2011 年 08 月 31 日	会員:48 会員(38 会員、5 個人会員、2 学会会員、3 特別会員)
	2011 年 10 月 21 日(第二回総会時)	会員:48 会員(37 会員、6 個人会員、2 学会会員、3 特別会員)
	2012 年 08 月 31 日	会員:53 会員(40 会員、7 個人会員、3 学会会員、3 特別会員)
	2012 年 10 月 12 日(第三回総会時)	会員:50 会員(39 会員、6 個人会員、2 学会会員、3 特別会員)
	2013 年 08 月 31 日	会員:54 会員(41 会員、7 個人会員、2 学会会員、4 特別会員)
	2013 年 10 月 04 日(第四回総会時)	会員:50 会員(36 会員、8 個人会員、2 学会会員、4 特別会員)
	(注:AITC では、法人と個人事業主を会員と表す)	

2. 活動実績

2012 年 9 月 1 日から 2013 年 8 月 31 日までの一年間における各種活動の状況を以下にご報告いたします。

1) 総会

第三回総会開催

開催日 2012 年 10 月 12 日
開催会場 リコー IT ソリューションズ本社事業所 大会議室(晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワー X 42 階)
参加者数 62 名

2) 理事会 : 開催 2 回、ML 審議 7 回

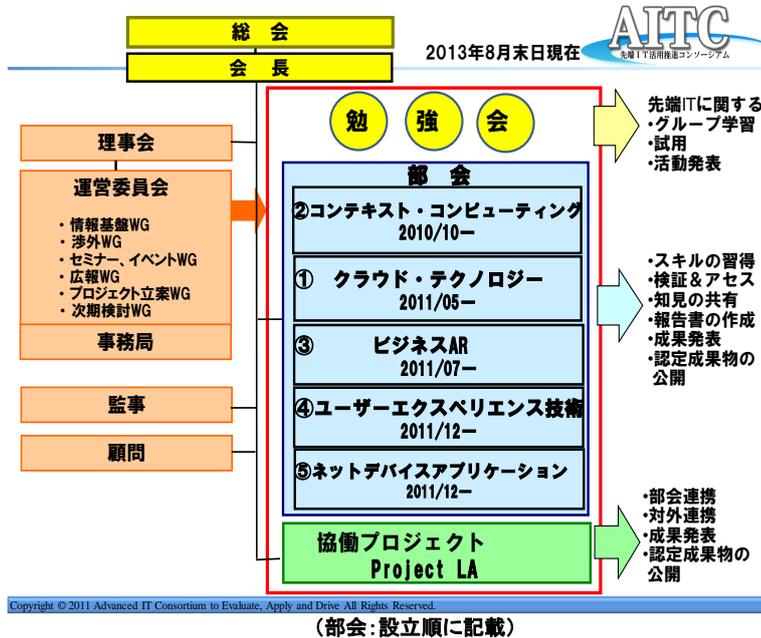
- ・理事会 : 2012 年 09 月 21 日、2012 年 10 月 12 日
- ・ML 審議: 2012 年 10 月 03 日~2012 年 10 月 10 日 「2011 年度会員アンケート」サマリーの会員限定公開の是非について
- 2013 年 03 月 23 日~2013 年 04 月 05 日 BizAR 研究部会作成の「AR 産業論」成果物認定 & 一般公開の是非について
- 2013 年 06 月 08 日~2013 年 06 月 14 日 富士通(株) 理事交代に伴う新理事承認の可否
- 2013 年 06 月 14 日~2013 年 06 月 20 日 富士通(株) 新運営委員承認の可否について
- 2013 年 06 月 20 日~2013 年 06 月 27 日 BizAR 研究部会作成デモ ソースコードの会員限定公開の可否について
- 2013 年 07 月 17 日~2013 年 07 月 24 日 第 3 期(2012 年度) 会員アンケート実施の件
- 2013 年 07 月 31 日~2013 年 08 月 09 日 BizAR「AR 産業論」関連コラムの成果物認定と公開の是非について

3) 運営委員会 : 開催 13 回、ML 審議 8 回

- ・運営委員会: 2012 年 09 月 13 日、2011 年 09 月 21 日、2012 年 10 月 26 日、2012 年 11 月 30 日、2012 年 12 月 21 日、2013 年 01 月 25 日、2013 年 02 月 22 日、2013 年 03 月 22 日、2013 年 04 月 26 日、2013 年 05 月 24 日、2013 年 06 月 28 日、2013 年 07 月 26 日、2013 年 08 月 23 日
- ・ML 審議 : 2013 年 02 月 26 日 ~2013 年 03 月 04 日 UX 技術 & NDA 両部会からの Web 上のサービス利用ならびに予算の申請について
- 2013 年 02 月 26 日~2013 年 03 月 04 日 入会承認の件
- 2013 年 03 月 18 日~2013 年 03 月 21 日 入会承認の件
- 2013 年 04 月 03 日~2013 年 04 月 05 日 個人会員入会承認の件
- 2013 年 07 月 01 日~2013 年 07 月 05 日 第 3 期(2012 年度) 会員アンケート実施の件
- 2013 年 07 月 18 日~2013 年 07 月 24 日 Touch&Try 出展デモ開発に伴う費用の承認是非について
- 2013 年 07 月 23 日~2013 年 07 月 29 日 BizAR「AR 産業論」コラム レビュー
- 2013 年 08 月 13 日~2013 年 08 月 20 日 Touch&Try 出展デモ費用に関する是非について

4) 活動対象分野と体制

- ① クラウド・テクノロジー : 勉強会活動を経て、2011年5月に部会化
 - ② コンテキスト・コンピューティング : 2010年10月より部会活動開始
 - ③ AR : ビジネスARをテーマに2011年7月より部会活動開始
 - ④ ユーザーエクスペリエンス技術 : 2011年12月より部会活動開始
 - ⑤ ネットデバイス アプリケーション : 2011年12月よりUX技術と合同で活動開始
- (注: ソーシャル・コミュニケーション分野に関しては、部会ははじめAITCの活動全体でSNS等の仕組みを設立時より活用)



5) 主催イベント(部会活動への進展を目指すセミナー、活動成果の発表会、演習中心の勉強会、わいがやオフライン等) 計10回(延べ11日間)

2012/10/12(金)	先端 IT 活用推進コンソーシアム(AITC) 第三回総会	63 名
2012/12/20(木)	2012 年 12 月度 合同部会 & 忘年会	28 名
2013/01/26(土)	第 1 回勉強会 「ビッグデータを支えるクラウド技術 ～今更聞けない Hadoop 入門(演習編)～」	20 名
2013/03/12(火)	気象庁 XML 利活用セミナー「気象情報を知る・取る・使うための実践」	84 名
2013/03/14(木)	Project LA 説明会(AITC 会員限定)	29 名
2013/05/18(土)	第 1 回 AITC わいがやオフライン 「人と社会と IT の未来を考える@横浜 ～私たちの手で未来を創るために～」	20 名
2013/07/11(木)	AITC 関西セミナー「気象庁 XML の利活用セッション&AITC Project LA のご紹介」	56 名
2013/07/13(土)	第 2 回勉強会「jQuery Mobile と Sencha Touch で Web アプリを作ってみよう！」	34 名
2013/07/31(水)	先進 NUI 技術セミナーシリーズ～ 先進 NUI がもたらす新たなユーザー体験を俯瞰する ～ 第一回 マイクロソフトの NUI テクノロジー	44 名
2013/08/29(木)	AITC Week 2013 (BizAR 発表 & 講演、Touch & Try デモ: 6 デモ+1 Video)	126 名
2012/08/30(木)	AITC Week 2013(UX 技術 & NDA、Cloud、CC、PLA、Touch & Try デモ: 3 デモ+1 Video)	53 名

(注: クラウド・テクノロジー=Cloud、ユーザーエクスペリエンス=UX、ネットデバイスアプリケーション=NDA、協働プロジェクト=PLA と表す)

延べ参加者:	総数	557名
	会員	413名
	非会員	143名
	プレス	1名

6) 部会および部会間連携活動

- ・部会開催(月次)+部会 SNS(随時)
- ・協働プロジェクト(月次+随時)+SNS(随時)
- ・リーダー会議(月次)

- ① クラウド・テクノロジー研究部会(2011年5月～)
 月例会部会：2012/09/14(金)、09/28(金)、10/23(火)、11/20(火)、12/20、2013/01/21(月)、02/20(水)、03/18(月)、04/18(木)、
 05/13(月)、06/17(月)、07/23(火)、08/20(火)
 参加者：延べ90名
 活動実績：部会開催：13回
- ・読書会(アイデンティティ管理技術解説)
 - ・勉強会(Linked Open Data、統計、Think Stats プログラマのための統計入門、R)
 - ・ハンズオン(Cassandra、RDF に対し SPARQL を実行してみる)
 - ・System LA α 版 CC研メンバーとの共同開発に従事
 - ・スパコン見学、外部イベント参加の感想・情報交換
 - ・成果発表
 (情報処理学会主催「ソフトウエアジャパン 2013」ITフォーラムセッション、気象庁XML利活用セミナー、AITC関西セミナー)
 - ・実装の公開
 (気象庁 XML 蓄積サービス、気象庁 XML クエリページ(会員限定)、気象庁 XML 配信サービス(会員限定))
- ② コンテキスト・コンピューティング研究部会(2010年10月～)
 月例会部会：2012/09/14(金)、09/28(金)、10/19(金)、11/16(金)、12/3(月)、12/20(木)、2013/1/18(金)02/01(金)、
 02/19(火)、04/19(金)、05/17(金)、06/21(金)、07/19(金)、08/21(水)
 参加者：延べ159名
 活動実績：部会開催：15回
- ・SNS によるオンラインミーティング 4回
 - ・コンテキスト・コンピューティングに基づくプロトタイプ・システムの設計・開発とアルゴリズム研究
 ⇒ System LA、拡張証拠理論(デンプスター・シェファー)
 - ・コンテキスト・コンピューティングのホワイト・ペーパー作成
 ⇒ ホワイト・ペーパーのベースライン「人とコンピュータの協働、コンテキスト・コンピューティングで目指すもの」
- ③ ビジネス AR 研究部会(2011年7月～)
 月例会部会：2012/09/20(木)、10/18(木)、11/09(金)、12/14(金)、2013/01/11(金)、12/20(木)、02/08(金)、03/08(金)、
 04/12(金)、05/13(月)、06/14(金)、07/12(金)、08/09(金)
 参加者：延べ108名(お試し参加の非会員 6名)
 活動実績：部会開催：13回
- ・不定期開催
 SNS によるオンラインミーティング
 SNS から派生したオフラインミーティング(AR 産業論ディスカッション)
 - ・「AR 産業論」(対談形式の読み物とコラム(AR 産業論を補完する読み物))の AITC HP での掲載
 - ・2012-2013 の AR 関連情報収集
 - ・デモ開発した AR 懐中電灯・HMD AR の会員限定公開
 - ・SystemLA 連携、System LA α 版の試用 & Virtual 防災訓練への参加を通して System LA の有効性を考察、セカイカメラ的な AR ブラウザの開発・デモ
 - ・タッチ&トライでの慶應義塾大学稲見研究室、デジタルハリウッド大学大学院三淵研究室、AR 三兄弟、jig.jp、テレパシー、着パフの講演やデモでの連携
- ④ ユーザーエクスペリエンス技術部会 & ネットデバイスアプリケーション部会(2011年12月～)
 月例会部会：2012/9/20(金)、2012/10/25(木)、11/22(木)、12/20(木)、2013/01/30(木)、02/21(木)、03/29(金)、04/25(木)、
 05/23(木)、06/27(木)、07/25(木)、08/22(木)
 参加者：延べ118名
 活動実績：部会開催：12回
- ・通勤、および災害発生時の安否確認/避難を対象として UX デザインプロセス全体を2サイクル実施。
 - ・災害発生時の安否確認/避難を対象にアプリケーション開発を開始。
 - ・準天頂衛星「みちびき」を活用のため、GPS モジュールを作成
- ⑤ 協働プロジェクト<Project LA>(2011年7月 検討開始)
 会議：・検討委員会(部会リーダー&運営委員会有志)：月次開催
 ・開発チームミーティング(コンテキスト・コンピューティング研究部会 & クラウド・テクノロジー研究部会の有志)：随時開催
 ・合同部会：2012/12/20(木)開催(部会間連携を検討)
 活動実績：System LA α 版の開発
- ・α 版の会員限定公開：2013年4月5日(最新版はα3)
 - ・α 版試用体験および有意性の検討(System LA Users コミュニティの有志)：

2013/04/15(月)、04/16(火)、04/25(木)、05/07(火)、05/30(木)、06/14(金)

- ・防災・避難訓練シナリオの検討
- ・帰宅困難者支援、風水害避難訓練の実施<コンセプトと機能の検証>:07/20(土)、08/24(土)
- ・講演・発表
 - AITC 第三回総会
 - 情報処理学会主催「ソフトウェアジャパン 2013」ITフォーラムセッション
 - Project LA説明会(会員限定公開に向けて)
 - AITC関西セミナー
 - AITC Week 2013

7) 活動成果物

ビジネス AR 研究部会

- ・「AR 産業論」(部会有志による対談)
2013年5月8日 一般公開を開始 →<http://aitc.jp/bizar/theTheoryOfARIndustry/talk1.html>
- ・「AR 懐中電灯」および「HMD AR」のソースコードおよび README ファイル
(部会有志により開発され、2012年8月29日開催「Touch&Try イベント」に出展されたデモのコードと資料)
 - ーAR 懐中電灯: 分岐点などに向けてと行きたい方向を映し出す
 - ーHMD AR : その場にいる人の情報が付与される HMD(Head Mounted Display)
- 2013年7月16日 会員限定公開を開始 →<http://aitc.jp/pubs/20130716-BizAR.html>
- ・「AR 産業論」コラムシリーズ(「AR 産業論」を補完するものとして部会有志が執筆中のコラムシリーズ第1弾)
2013年8月26日 一般公開を開始
 - 「AR 産業論とは」 →<http://aitc.jp/bizar/theTheoryOfARIndustry/definition.html>
 - 「AR が救う 100 年後の人類」 →<http://aitc.jp/bizar/theTheoryOfARIndustry/100years.html>

8) 公開資料

AITC では、会員特典の一つとしてセミナー等の資料については、原則として、半年間の会員限定公開後、一般公開に切り換えています。
第2期(2012年度)に開催されたセミナー等の資料で、2012年9月1日～2013年8月31日に一般公開に切り換えた資料は下記の通りです。

2012/03/22(木) 第4回 ユーザーエクスペリエンス技術部会 & ネットデバイスアプリケーション部会

- ・招待セミナー1「これまでのUIとこれからのUIについて」
- ・招待セミナー2「UXによる業務生産性を向上した事例及びマルチ OS 開発環境の XPLATFORM の紹介」

2012/04/20(金) AITC Day 2012(第2回中間活動報告会)

- ・先端IT活用推進コンソーシアムについて
- ・クラウド・テクノロジー研究部会 活動報告
 - 「OpenSocialを使った認証・認可」
 - 「異なるベンダーのクラウドAPIを使ってみる」
 - 「Key-Value ストアを用いた GPV データ閲覧サービスの構築(改)」
- ・ビジネス AR 研究部会 招待講演 「ARはどうか「世界」を変えるか」(会員限定)
- ・ビジネス AR 研究部会 活動報告
 - 「ビジネス AR 部会からみる AR 産業」
 - 「テクニカルセッション」
- ・ユーザーエクスペリエンス技術部会およびネットデバイス アプリケーション部会 活動報告
- ・ユーザーエクスペリエンス技術部会およびネットデバイス アプリケーション部会 招待講演
 - 「ユーザーエクスペリエンス ～それは何か・どう捉え・どう開発につなげるのか?」
- ・コンテキスト・コンピューティング研究部会および協働プロジェクト 招待講演
 - 「パーソナルクラウドによる個人データの共有と活用: 虫の目、鳥の目、魚の目を結ぶプラットフォーム」
- ・コンテキスト・コンピューティング研究部会 活動報告
 - 「人だけでなく、機械だけでなく、関心事の内容指向で
 - ーコンテキスト・コンピューティングが実現する未来: 基本設計編ー」
- ・協働プロジェクト 開始にあたってのご紹介

2012/05/24(木) 協働プロジェクト(Project LA)に関する説明会

- 第5回 ユーザーエクスペリエンス技術部会 & ネットデバイスアプリケーション部会
- ・招待セミナー「企業戦略としてのユーザーエクスペリエンス」

2012/06/21(木) 第6回 ユーザーエクスペリエンス技術部会 & ネットデバイスアプリケーション部会

- ・招待セミナー「UX デザイン入門」

2012/08/29(水)～2012/08/30(木)

AITC Week 2012(第2回活動成果発表会)

- ・ビジネス AR 研究部会
 - 基調講演「今までとこれから」
 - 「2011-2012 ここ1年の AR 関連情報アップデート」
- ・ユーザーエクスペリエンス技術部会 および ネットデバイス アプリケーション部会

- 「部会活動状況報告」
 - 「ユーザーエクスペリエンス デザインプロセスの全体像」
 - 「ユーザーエクスペリエンス デザインプロセスの実践状況」
- ・コンテキスト・コンピューティング研究部会
 - 「コンテキスト・コンピューティングによる情報の個人化の方法」
 - 「コンテキスト・コンピューティング研究部会 活動紹介」
 - 「コンテキスト・コンピューティングの実証準備と評価」
 - 「関心事にチェックイン！プロトタイプを紹介」
 - ・クラウド・テクノロジー研究部会
 - 「クラウド・テクノロジー研究部会 活動報告」
 - 「GoogleAppEngine と AWS を利用した Facebook データ収集のプロトタイプ」
 - 「AWS を利用した Twitter データ収集のプロトタイプ」
 - 「セマンティック Web プログラミングことはじめ」
 - 「Jena を使った三つ組みデータの格納と検索」
 - 「PubSubHubbub 試用レポート」
- 2012/10/12(金) 先端 IT 活用推進コンソーシアム(AITC) 第三回総会
 - ・第三回総会 議案書
 - ・AIT C 2011 年度会員アンケート集計結果(会員限定)
 - ・協働プロジェクト(Project LA)
 - Project LA の概要紹介
 - バックグラウンド処理と課題
 - その先の夢
 - ・パネルディスカッション 顧問は語る！先端 IT と技術者は社会にどう貢献するか？
- 2013/01/26(土) 勉強会「ビッグデータを支えるクラウド技術 ～今更聞けない Hadoop 入門(演習編)～」
 - ・ビッグデータを支えるクラウド技術 .今更聞けない Hadoop 入門(演習編)～
- 2013/02/15(金) 情報処理学会 ソフトウェアジャパン 2013
 - ・ビッグデータが導く「知識から行動へ」実証プロジェクトのご紹介
 - オープニング / AITC 概要紹介
 - 講演-1「Project LA の概要紹介」
 - 講演-2「バックエンドの技術解説」
 - 講演-3「Project LA プロトタイプご紹介」
 - 講演-4「Project LA にかける夢」
- 2013/03/14(木) Project LA 説明会(AITC 会員限定)
 - ・Project LA の概要紹介
 - ・バックエンドの技術解説 RDF を使った三つ組みデータの格納
 - ・フロントサイドの技術解説 HTML5 モバイル WEB アプリケーション
 - ・今後の計画 ～Project LA にかける夢～
- 2013/07/11(木) AITC 関西セミナー「～気象庁 XML 利活用セッション & AITC「Project LA」のご紹介～」
 - ・アジェンダ
 - ・AITC の紹介資料
 - ・第1部 気象庁 XML 利活用セミナー
 - 気象庁 XML
 - 気象庁 XML とは
 - 気象庁 XML を入手しよう
 - 天気予報 XML を読み解こう
 - データベースにためてみました
 - 配信サーバを立ててみた
 - 生物季節 XML をいじってみた
 - ・第2部 Project LA(Leads to Action)の紹介
 - Project LA 説明と使用体験
- 2013/07/13(土) 第 2 回勉強会「jQuery Mobile と Sencha Touch で Web アプリを作ってみよう！
 - ～2 大スマホ向け Web アプリフレームワークを使いながら比較～
 - ・はじめに
 - ・5 分でわかる jQuery Mobile

- ・[jQuery Mobile ハンズオン](#)
- ・[5分でわかる Sencha Touch](#)
- ・[SenchaTouch ハンズオン](#)
- ・[ハンズオンまとめ](#)

なお、一般公開切り換え時期にある資料であっても、講演者から要請のあった資料、および 会員アンケートの集計結果については会員限定公開を継続します。

9) 外部組織・団体との協力関係(順不同)

- ・部会活動、Project LA への協力・支援
 - 産業技術総合研究所
 - 気象庁
 - 消防庁 消防大学校 消防研究センター
 - 防災科学技術研究所
 - 慶應義塾大学大学院 稲見研究室
 - 東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャル ICT 研究センター
- ・BizAR 研究部会のアライアンス・パートナー
 - デジタルハリウッド大学大学院 三淵研究室
- ・マーケティング活動支援
 - 情報処理学会
- ・メディア・パートナー
 - ITmedia エンタープライズ
 - COMPUTERWORLD

10) 外部主催イベントに対する協賛: 1回

- ・「ソフトウェアジャパン 2013」協賛 2013年2月15日
主催:一般社団法人 情報処理学会

11) 外部セミナー等での講演: 1回

- ・「ソフトウェアジャパン 2013 ITフォーラムセッション」2013年2月15日 於:学術総合センター 国立情報学研究所
「ビッグデータが導く「知識から行動へ」実証プロジェクトのご紹介」
- | | |
|--------------------------|------------------------|
| AITC 副会長 | 田原 春美 (ドリーム IT21) |
| コンテキスト・コンピューティング研究部会リーダー | 牧野 友紀 (日本ユニシス株式会社) |
| クラウド・テクノロジー研究部会リーダー | 荒本 道隆 (アドソル日進株式会社) |
| コンテキスト・コンピューティング研究部会メンバー | 高岡 大介 (当時:産業技術総合研究所) |
| ユーザーエクスペリエンス技術部会リーダー | 松山 憲和 (PFU ソフトウェア株式会社) |

12) Web サイト、Facebook 等による情報発信

AITC からの情報発信をよりオープンにすることを目指し、テスト期間を経た後、2013年3月より Facebook の本格的な活動を開始しました。

現在、AITC の情報発信・交換の基盤は下記の4種で、次のような位置付けで活用しています。

- ①AITC サイト →<http://aitc.jp/>
 - ・設立時から現在に至るまで AITC の全てを参照でき、公開資料(一般公開、会員限定公開)も当サイトから利用可能。
 - ・AITC からのお知らせ、部会・協働プロジェクトの活動状況(年度別の活動要綱)、AITC について(会員一覧、組織&体制、会員規約、実施細則等)を参照できる。
- ②Facebook: AITCページ→<http://www.facebook.com/aitc.jp>
AITCイベントページ →<http://www.facebook.com/aitc.jp#!/aitc.jp/events>
 - ・Facebookでは、AITC からの催事情報掲載、参加申し込みの表明、参加者のコメント参照等が可能
- ③AITC SNS →<http://sns.aitc.jp/> SNS
AITC 会員専用、招待制の SNS で、AITC 会員企業の社員で、先端 IT に興味のある方の参加歓迎
各部会や協働プロジェクトのコミュニティ、わいがや会議室等、計11のコミュニティがあり、月例部会の活動フォロー、情報・意見交換、資料レビュー等、日常的な活動の場として活用中
- ④ML (information_aitc, news_aitc)
information_aitc: 各会員(企業)の代表者および連絡担当者に AITC からの各種情報を配信するための ML
news_aitc : 登録者全員(非会員を含む)に催事情報をお送りするための ML
本会から登録者に直接配信されるため、速やかな情報入手が可能

- 活動実績: ・コンテンツ更新(月次/随時)
- セミナー、部会開催等の案内
 - 協賛・後援イベント案内掲載

13) アンケート実施、公開

・「第3期(2012年度)会員アンケート」

実施期間: 2013年07月26日～2013年08月31日

公 開: 2013年10月04日 (本会サイトに掲載、会員限定公開)

(注: 第3期(2012年度)とは、2012年9月1日～2013年8月31日を指す)

第2号議案

第3期(2012年度)収支報告の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第 3 期(2012 年度)収支計算書

2012 年 9 月 1 日 から 2013 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	2012 年度 予算	2012 年度 実績	差額	備考 予算策定時 vs 実績
1. 収入の部				
前年度繰越	5,035,916	5,035,916	0	
年会費	4,066,000	3,961,000	105,000	法人&個人事業主 40 会員x10 万円 vs 38 会員 x10 万円 2 会員 x5 万円 個人会員 6 会員 x 1 万円 vs 5 会員x1 万円 1 会員 x5 千円 学会会員 2 会員 x 3 千円 vs 2 会員 x3 千円
セミナー等参加費	210,000	225,650	△15,650	非会員参加費: 3 万円 vs 21,150 円 会員 & 非会員参加費: - vs 47,500 円 懇親会参加費: 18 万円 vs 157,000 円
雑収入	1,000	1,228	△228	受取利息等
収入の部合計	9,312,916	9,223,794	89,122	
2. 支出の部				
総会開催費	120,000	212,680	△92,680	講師交通費、懇親会費用(規模拡大による予算超過)
セミナー、成果発表会等の開催費	500,000	241,669	258,331	講師交通費、懇親会費補てん セミナー用品運搬費等
コンソーシアムサイト リニューアル費	300,000	0	300,000	リニューアル費:25 万円 vs 0
勉強会・部会活動支援金	500,000	314,931	185,069	アプリ開発機器等:20 万円 vs 22 万円 貸し会議室利用料:20 万円 vs 3 千円 Web 上のサービス利用等:10 万円 vs 9.1 万円
協働プロジェクト活動支援金	1,000,000	219,334	780,666	クラウド基盤の使用料:95 万円 vs 21 万円 VPS 使用料:2 万円 vs 9 千円
特別支援金	4,000,000	0	4,000,000	活動成果物の書籍化 (注:第 4 期へ全額持ち越し。但し、今後の用途は再検討)
イベント開催費	500,000	289,318	210,682	機器機材費 :48 万円 vs 28.9 万円 会場装飾/造作費: 2 万円 vs 0 等
事務局経費	1,520,000	1,575,000	△55,000	事務局サポート要員費(情報配信&サイト管理、会員管理 & 対応、セミナー等申し込み窓口 & 運営補助、財務管理、 経理業務、事務作業一般、対外対応等) 3 月以降、FB 活用による作業量増加によりサイト管理を 1 万円値上げ。このための予算超過。
通信費	3,000	5,400	△2,400	郵送料、宅急便費の増大(想定を超える機材の配送が発生)
事務消耗品費	4,000	2,836	1,164	
雑費	3,000	11,564	△8,564	振り込み手数料、名刺作成費(想定を超える作成が発生)
予備費	862,916	0	862,916	
支出の部合計	9,312,916	2,872,732	6,440,184	
次期繰越収支差額		6,351,062		

収支報告にあたって:

設立以来の 3 年間をかけ、AIRC の活動は着実に、確実に発展している。一方、支出の観点から見ると、前年同様の支出額に留まり、635 万円の余剰金が発生した。ただし、余剰金発生最大の要因は、成果物の書籍化のために計上した400万円が、更なる検討が必要との判断をもって第4期(2013 年度)に持ち越しとなったためであり、活動の停滞や鈍化を意味するものではないことをご理解いただきたい。なお、余剰金については、書籍化はもとより各種活動に有効に充当していくことでご理解をいただきたい。

貸借対照表

2013年8月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	6,567,062		
流動資産合計		6,567,062	
資産合計			6,567,062
【負債の部】			
前受金	216,000		
流動負債合計		216,000	
負債合計			216,000
【正味財産の部】			
正味財産			6,351,062
(うち当期正味財産増加額)			(1,315,146)
負債及び正味財産合計			6,567,062

財産目録

2013年8月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	6,567,062		
普通預金	6,567,062		
横浜銀行	6,567,062		
流動資産合計		6,567,062	
資産合計			6,567,062
【負債の部】			
流動負債			
前受金	216,000		
流動負債合計		216,000	
負債合計			216,000
正味財産			6,351,062

第3期(2012年度) 監査報告書

監査報告書

2013年9月10日

先端IT活用推進コンソーシアム
会長 鶴保 征城 殿

監事

水石 学



私監事は、先端IT活用推進コンソーシアム会員規約第34条に基づき、本会の会期と定めた2012年9月1日から2013年8月31日における会計および業務について監査を行い、次のように報告します。

記

1. 監査の方法と概要

- (1) 会計監査のため、帳簿ならびに関係書類の閲覧をし、貸借対照表、収支計算書、財産目録について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。
- (2) 業務監査のため関係書類の閲覧をし、業務執行について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。

2. 監査意見

- (1) 貸借対照表、収支計算書、財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法令および規約に従って、先端IT活用推進コンソーシアムの財産および収支を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容および業務執行に関して、不正行為または法令もしくは規約に違反する事実はないことを認める。

以上

第3号議案

第4期(2013年度)活動計画承認の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

1. 本会の活動・運営方針

1) 活動理念

- ・特定企業や団体からの独立性・中立性
- ・一社ではできない活動、競合関係を超えた活動
- ・外部組織・団体との協業
- ・人的ネットワークの構築
- ・成果物の公開

2) 活動の目的

昨今、ITの変化は急速に速まり、加えて、従来の発展の方向性とは大きく変わりつつある。

本会は、新しいIT(以下、先端ITという)の利活用を推進し、もってIT業界およびITが支える産業界、ならびに社会の発展に貢献することを目指し、技術者の自律的な活動を支援し、個々の技術者が先端ITを身につけ、今後の企業活動および社会の発展に活かすための活動の「場」を提供する。

- ・日頃より関心はあるが実際には学ぶ機会のない先端ITに関する情報を、いち早く、そして幅広く、技術者に提供し、試用してみる場
- ・技術者が切磋琢磨しあって先端ITに関する情報と知見を習得し、共有する場
- ・先端ITを検証し、可能性をアセスし、良いものであればその利活用を推進する場
- ・いち早く次の先端ITを発掘し、紹介していく場
- ・先端ITに関する企業間交流の場

3) 活動の成果物

部会やプロジェクトの活動成果として、以下の成果物を想定する。

成果物については、一部を除き、会員外にも公開し、AITCの有する知見の流布、先端ITの活用推進に役立てることとする。

- ・試用・検討報告書、
 - ・実証実験報告書
 - ・事例集、ノウハウ集、活用提案あるいは提言書
 - ・プロトタイプシステム、報告書
- 会員限定：設計書、ソースコード、環境構築手順書
一般公開：構築後のプロトタイプ

2. 第4期(2013年度)の活動計画

1) 次期活動の構想にあたって

設立時には2013年8月31日までと会期を設定し、活動を開始した本会であるが、会期終了を1年後に控えた昨年の第3回総会において、「設立以来の技術の研鑽と蓄積をベースに先端ITの利活用を推進し、本会の目的を達成するために2016年8月31日まで会期を延長する」ことが全会一致で承認された。

これを受け、次期検討委員会(運営委員会の下部組織)を中心に、先端ITの利活用推進を目指す新しい段階に向けての本会活動のあり方を構想し、いくつかの試行を実施してきた。

次期検討委員会では、本会の特性は主構成員が企業会員であり、所謂コミュニティ活動との差別化は企業会員主体の活動にあることを再確認し、次期構想の検討を行った。

結果、先端ITの技術者育成を図りつつ同時に先端ITの活用を推進すること、また、AITCで培われたノウハウを社会へ還元していくことを次期活動構想とし、その実現を目指し場の再定義と再編を提案することとした。

2) 次期活動構想

先端ITに何度でもトライ出来る「場」を提供し、先端ITに対するより深い知見の獲得・発信することをコンセプトとし、AITCの活動を発展・活性化することを目指す。

・先端ITの研究から、活用推進へと発展

従来からの先端ITに対する研究を継続し、研究成果を踏まえて実社会での具体的な先端ITの活用方法の提案、および活用推進の活動を実施する。

・研究対象とした先端ITの中核を担うノウハウを社会に還元

先端ITを活用するための普遍的な知見(理論、技術)を整理し、社会へ発信し還元する。また企業が提供する固有のサービスのベースとしてAITCが発信するノウハウの活用を推進する。

・社会に認められる先端ITのプロフェッショナル集団へ

先端IT分野に対する研究成果を纏め、社会へ発信する。有用な情報を発信していくことにより、先端ITに対する知見を有するメンバーが集まる場としての地位を確立する。

3) 第4期の重点施策

以下に示す重点施策の遂行により、AITCの活動をより一層活性化し、次期活動構想の実現を目指す。今後下記以外にも有効な施策があれば、適宜実施するものとする。

・活動の進化と深化による会員内外への活動成果フィードバックの強化

・研究成果を文書にまとめ公開・流布

部会活動では各分野に特化した実践的な技術検証や研究テーマに対する協議、協働プロジェクトでは実証実験を重ねてきた。部会活動・協働プロジェクトの進化・深化に伴いこれまでに培ってきた研究成果を纏め、流布することを目指す。広く世に公開することにより、先端ITの活用に寄与すると同時に、社会的認知度の向上を目指す。また有用な情報を発信していくことにより、先端ITに対する知見を有するメンバーが集まる場としての地位を確立する。

・「AITCオープンラボ」で活動成果を伝播

部会活動の進化・深化に伴い、スキル・ノウハウの蓄積が進んでいるが、一方では、部会活動に参加出来ていない会員も多く存在している。次期活動構想で掲げているAITC活動の発展・活性化を実現するべく、今後は部会に蓄積されたスキル・ノウハウ、部会活動の一端を会員内外に発信強化するため、定期的に「AITCオープンラボ」を開催する。AITCオープンラボにより、AITC活動に参加出来ていない会員への参加機会を提供するとともに、AITCオープンラボからのフィードバックにより、AITC活動のコアである部会の活性化を目指す。AITCオープンラボは、次期活動構想に掲げる先端ITの活用推進への足掛かりとして裾野を広げる場であり、同時に知見・ノウハウの社会還元を目指す場として位置づける。

・情報公開、活動のオープン化

- ・セミナー等の資料公開について、AITCの発信する情報のオープン化を踏まえ、従来の半年間の会員限定公開後の一般公開から、即日、一般公開することを基本方針とする。これにより鮮度の良い、リアルタイム性の高い情報を外部に発信することで先端IT技術の活用推進に寄与する。
- ・イベント告知や決済手段をオープンな外部サービス(FacebookやPeaTixなど)を活用することにより、イベントの認知度向上、参加障壁の引き下げを図る。

・ロゴデザインの再設定

- ・次期活動構想により、新会期におけるAITCの活動をより発展・活性化することを明示するために、ロゴのデザインについても再設定する。常に先端ITを追求する上昇感、活用推進を活性化させる躍動感を表現するデザインに変更し、次期活動構想のシンボルとして位置づける。

① 現在のロゴ



② 変更後のロゴ

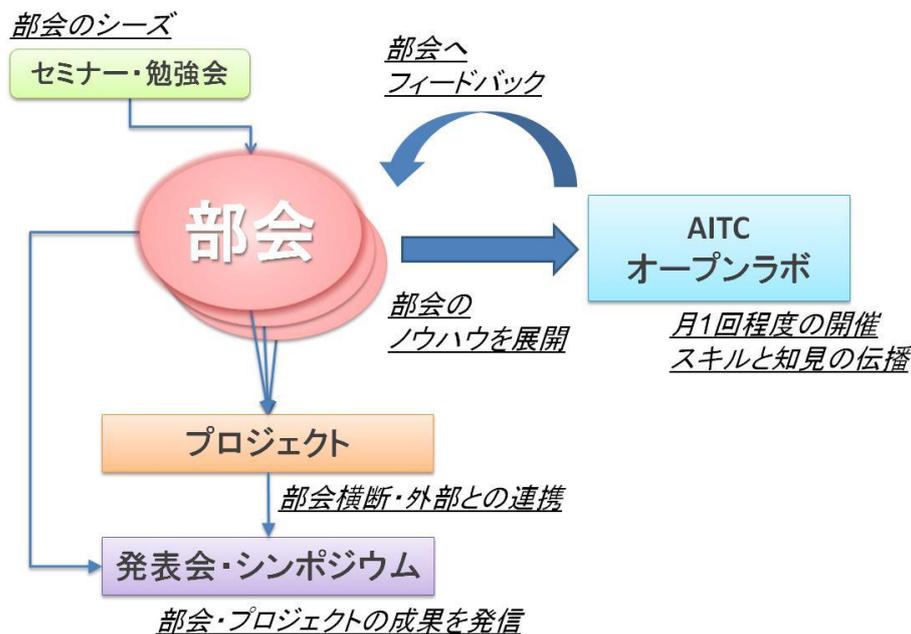


上昇感、躍動感を右上がりで表現し、先端をより尖らせた表現に変更。
変更後のロゴではフラットデザインを採用。

・若手技術者のより一層の育成

- ・日本の産業を活性化していくには若い世代の台頭が不可欠である。今後、先端IT活用の牽引役を担うであろう若手技術者にとってAITCの持つ知見や人脈は研鑽の一助になると考えられる。今期は、AITCの活動を通じて交流を図り、育成のあり方を模索しながら、日本のIT産業の活性化へ如何に寄与できるか、あるいはAITCの有する知見を如何に社会へ還元できるか試行する。
- ・AITCオープンラボへの参加を通じて、新しい技術に対する知見の獲得、技術者の保有するスキル・ノウハウの発表、意見交換等による研鑽の場の提供を行うことにより、若手技術者の成長に寄与することを目指す。

- 4) 活動の種類と関係性～次期構想実現のための「場の再定義と再編」を目指して～
 重点施策で掲げた「AITCオープンラボ」を活動に組み込み、既存の活動を含めて場の再定義と再編を行い、従来にも増して、部会をAITCのコアに位置付け、部会を活性化することによってAITC活動の進化・深化を図る。活動の種類と関係性を以下に示す。



① **セミナー・勉強会**

最新情報を入手する場

内外著名人による講演、交流の場

特定の先端 IT に関して、参考文書を読み、試しに使ってみる場

- ・部会のシーズとなる先端 IT
- ・旬の話題、関心の高いトピック
- ・製品・サービスの紹介

セミナーでは、部会や勉強会のシーズとなる先端 IT を取り上げ、内外著名人による講演を通じて、最新情報を入手する場を提供する。

また勉強会では、早いスピードで次から次へと新技術が誕生する分野であることを意識し、特定の先端 IT を短期集中(3ヶ月程度)で学習する。先端 IT の動向を見ながら、そして会員の希望に副わせながら、旬のテーマを取り上げていく予定であり、人気の高い先端 IT に関しては、適宜、勉強会を繰り返すことも計画する。会員は希望する勉強会に何度でも参加することができる。

② **部会**

スキルを身につけ、ノウハウを共有する場

- ・特定の先端 IT を取り上げ調査し、試用に基づき評価し、可能性のアセスをし、知見の共有をし、報告書の作成を目指す。

部会では、特定の先端 IT を対象に、参加メンバーが活動期間と目標、そして具体的な活動内容や方法を定める。定期的な活動を通して、また、すでに知見を有するメンバーとの交流を通して、参加者は特定の先端 IT に関し知識とスキルを深め、ノウハウを共有することが可能となり、加えて、人的ネットワークを培うことができる。会員は希望する部会に、いつでも、いくつでも、参加することができる。

③ **AITC オープンラボ**

部会で得た知見を伝播する場・参加者の反応や要望を部会へフィードバックする場

- ・部会に参加出来ない会員への参加機会の提供
- ・広く AITC の活動を告知し、会員内外での認知度向上に寄与
- ・活用推進への足掛かりとして裾野を広げ、知見を社会に還元

AITC オープンラボでは、部会の活動内容・成果を基に、勉強会や他団体との交流イベントを開催する。部会に参加されていない会員も部会の活動内容を知ることができ、部会活動で培った知見、ノウハウを得ることが可能になる。部会側は参加者の反応や要望のフィードバックを受けることで、活動の進化・深化に役立てることができる。イベントは多様な形態を構想しており、「セミナー」「ハンズオン」「わいがや・オフライン」「会社見学」「他団体との交流」など、取り扱うテーマに合わせた形態でのイベント開催を目指す。会員は希望する AITC オープンラボに何度でも参加することができる。

④ プロジェクト

部会間／外部団体との連携で研究を行う場

- ・先端 IT を使った実証実験、報告書/提言書の作成
- ・実証実験ではシナリオ作成、シナリオ設計、実装を行う
- ・公募による参加者募集

プロジェクトは、特定の目標(特定テーマによる実証実験、報告書/提言書等の作成)のために、一定期間、複数部会が合同で、あるいは、外部組織・団体と連携し活動する。

実証実験の目的は、部会活動で得た仮説を検証することであり、外部との連携により、ユーザー視点での取り組み、データの提供、現場の助言等を受けられる利点がある。先端 IT の活用例を提示することで、活用推進の一翼を担い、成果物をもってプロジェクトで得た知見を社会に還元することを目指す。会員は公募に応募し、プロジェクトに参加することができる。

⑤ 発表会・シンポジウム

実活動に基づく情報と知見を共有する場

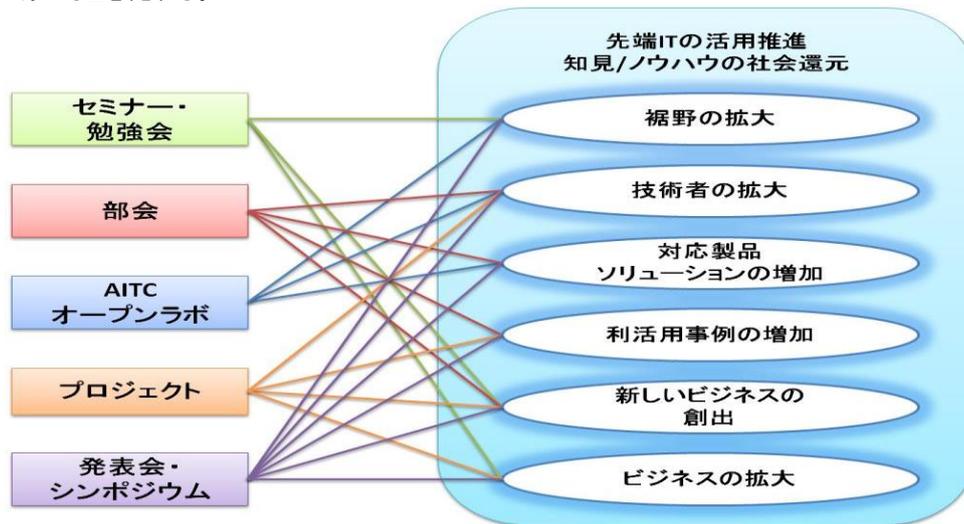
- ・部会の活動や成果、プロジェクトの成果を発表する

部会やプロジェクトでの活動内容、成果を基に、会員内や外部に対して発表を行う。

AITC 単独で開催する場や、他の団体と共催する場、または他の団体が主催する場での発表を通して、知見を社会に還元し、先端 IT 活用推進の実現を目指す。

5) 活動の期待効果

先端ITの活用推進、知見・ノウハウの社会還元を実現するための要素に対して、活動を通して下記のような直接的、間接的な効果があがると想定する。



6) 活動対象分野

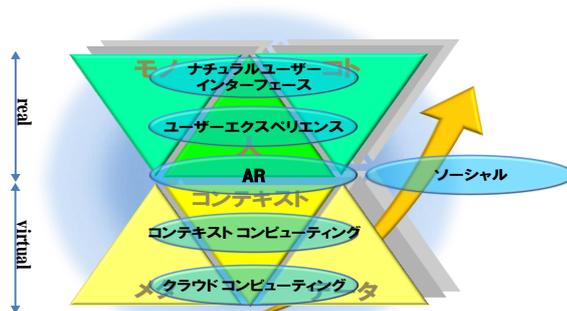
本会では、これからのビジネスや社会基盤を支えるであろう先端 IT を取り上げ、新しい IT 活用を拓くことを目指し活動している。ユーザー・インターフェースからデータ/情報、アプリケーション、そしてシステム基盤関連まで幅広い分野における先端 IT をカバーしているからこそ、活動への関与の仕方次第で幅広いスキルやノウハウ、情報や知見を得る機会があり、多様な人との交流も可能になることが期待できる。

この視点に立ち、本年度は以下の対象分野別の活動を中核に据える。

- ① クラウド・テクノロジー
- ② コンテキスト・コンピューティング
- ③ ビジネスAR
- ④ ユーザーエクスペリエンス(UX)技術
- ⑤ ナチュラルユーザーインターフェース(NUI) <注: ネットデバイスアプリケーション(NDA)からの移行>
(注: ソーシャル・コミュニケーション分野に関しては、部会ははじめAITCの活動全体でSNS等の仕組みを設立時より活用)

注: 分野別の活動計画詳細については、本議案書の付属資料に記載

【活動対象分野の位置付け】

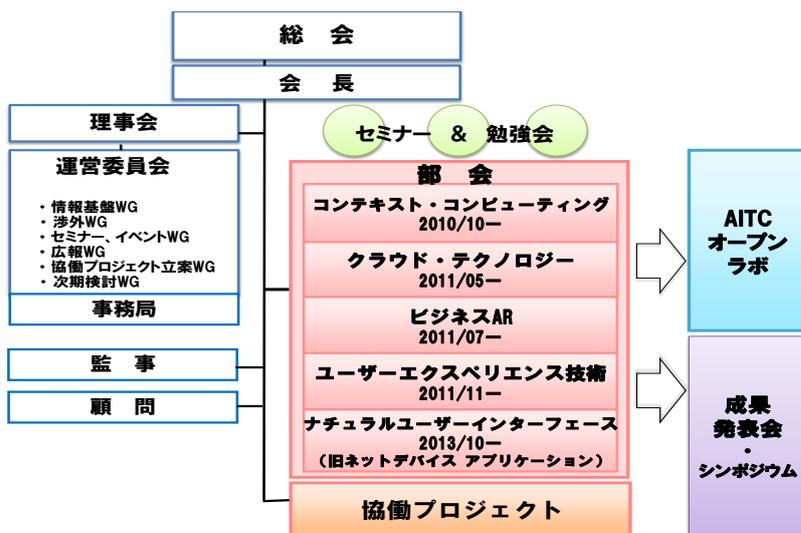


【新規分野への取り組みについて】

活動対象分野以外の先端ITに関しては、次の方法をもって会員からの要望を収集し、活動の立ち上げや旬の情報提供に努める。

- ① 本会会員なら誰でも、いつでも要望、意見等何でも書き込み可能な会員 SNS「わいがや会議室」を新しい活動テーマや旬の情報の発掘にも活用する。
- ② 運営委員会が、適宜、セミナーを企画、開催する。
- ③ 会員が提案し所定の手続きを経て活動を立ち上げる。
 - 会員規約第40条(勉強会)
 - 3 勉強会は、会員が提案し、理事会への報告をもって活動を開始する。
 - 会員規約第41条(部会)
 - 3 部会は、会員が部会新設を提案し、理事会の議決を得て、設ける。

7) 体制図



8) 年間主要活動計画

- (年次) 2013年10月04日 理事会、第四回総会、総会記念講演、懇親会
- 2014年10月(予定) 理事会、第五回総会、総会記念講演、懇親会
- (月次) 運営委員会、部会リーダー会
- 部会(月例 F2F 会議)
- Project LA 推進会議
- AITC オープンラボ
- (随時) SNS コミュニティによる部会や Project LA 活動
- Web サイト更新作業
- セミナー
- 活動/成果発表会
- AITC内あるいは他団体との交流会、情報交換会
- 取材協力
- 外部主催の催事に対する協力

第4号議案

第4期(2013年度)予算計画承認の件

先端IT活用推進コンソーシアム

第 4 期(2013 年度)予算計画

2013 年 9 月 1 日 から 2014 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	2012 年度 予算	2012 年度 実績	2013 年度 予算案	備考
1. 収入の部				
前年度繰越	5,035,916	5,035,916	6,351,062	
年会費	4,066,000	3,961,000	3,686,000	法人&個人事業主 36 会員×10 万円 個人会員 8 会員 × 1 万円 学会会員 2 会員 × 3 千円
セミナー等参加費	210,000	225,650	220,000	非会員参加費 20 名 × 3 千円 懇親会参加費 80 名 × 2 千円
雑収入	1,000	1,228	1,200	受取利息等
収入の部合計	9,312,916	9,223,794	10,258,262	
2. 支出の部				備考:主用途
総会開催費	120,000	212,680	300,000	賞状作成費用、懇親会費用、備品運搬費等
AITC オープンラボ、成果発表会等 開催費	500,000	241,669	1,000,000	AITC オープンラボ用外部会場費、 外部講師御礼(交通費、懇親会費)等
コンソーシアムサイト リニューアル費&運用管理費	300,000	0	200,000	サイト リニューアル費 Web サイト レンタルサーバー費
活動支援金	500,000	314,931	2,100,000	部会共用システム基盤費 部会別レンタルサーバー費、 部会活動用の機器購入/レンタル費等
協働プロジェクト支援金	1,000,000	219,334	200,000	Projet LA 用レンタルサーバー費
特別支援金	4,000,000	0	1,000,000	活動成果物の書籍化、小冊子等の作成費
イベント参加費	500,000	289,318	500,000	外部イベントへの参加、出展費
事務局経費	1,520,000	1,575,000	1,785,000	事務局サポート要員費 (情報配信&サイト管理、会員管理&対応、 セミナー等申込受け付け&運営補助、 財務管理、経理業務、事務作業一般、対外対応等)
通信費	3,000	5,400	10,000	郵送料、宅急便費
事務消耗品費	4,000	2,836	5,000	
雑費	3,000	11,564	50,000	振り込み手数料 名刺作成費(ロゴ変更に伴う新規作成)
予備費	862,916	0	3,108,262	
支出の部合計	9,312,916	2,872,732	10,258,262	

- 特記事項: 1. 年会費の収入については現会員数をベースに確実な収入額を計上
 2. 今期の重点施策である AITC オープンラボの開催支援金を計上
 3. 部会活動の一層の充実と発展を支援すべく、昨年度予算の4倍、実績の7倍弱にあたる活動支援金を計上
 4. 活動と成果をより広範に広報するため、外部イベントへの参加・デモ出展を想定しイベント参加費を計上
 5. 書籍化については内容と形態と効果の熟考を前提として、昨年度に比し大幅に予算削減
 6. 次年度の活動支援金を担保するため、総収入の 30%を予備費として計上

第5号議案

第4期(2013年度)理事/監事選任の件

先端IT活用推進コンソーシアム

第4期(2013年度) 先端IT活用推進コンソーシアム役員構成

【理事候補】(敬称略、社名50音順)

(交代)

株式会社 NTT データ	技術開発本部 副本部長	星 敬一
	技術開発本部 サービスイノベーションセンタ センタ長(兼務)	
日本ユニシス株式会社	アドバンスド技術部 部長	佐藤 和雄
富士ゼロックス株式会社	執行役員、ソリューション・サービス開発本部/本部長	永岡 大治

(留任)

アドソル日進株式会社	先端 IT 技術センタ センタ長	佐藤 一裕
イースト株式会社	代表取締役社長	下川 和男
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
インフォテリア株式会社	代表取締役社長/CPO	平野 洋一郎
独立行政法人 情報処理推進機構	顧問	鶴保 征城
ドリーム IT21	代表	田原 春美
株式会社日立製作所	情報・通信システム社 IT プラットフォーム事業本部 開発統括本部 主管技師長	吉野 松樹
株式会社日立ソリューションズ	技術開発本部 研究部 部長	小野山 隆
富士通株式会社	計画本部 DIS開発企画室 室長	藤田 和彦
PFU ソフトウェア株式会社	基盤ソフトウェア統括部 UX 技術部 部長	松山 憲和
ピースミール・テクノロジー株式会社	代表取締役社長 CEO	林 浩一
リコーITソリューションズ株式会社	フェロー	飯沢 篤志

【監事候補】

(留任)ピー・シー・エー株式会社	代表取締役社長	水谷 学
------------------	---------	------

参考: 顧問&部会顧問(敬称略、組織名50音順)

【AITC 顧問】

(新任) (独)産業技術総合研究所 知能システム研究部門 上級主任研究員	和泉 憲明
(留任) 慶応義塾大学 大学院 メディアデザイン研究科 教授	稲見 昌彦
慶応義塾大学 環境情報学部 教授	萩野 達也
東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャル ICT 研究センター 教授	橋田 浩一
早稲田大学 生産情報システム研究科客員教授	丸山 不二夫
名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室	山本 修一郎

【ビジネス AR 研究部会顧問】

AR 三兄弟 長男	川田 十夢
デジタルハリウッド大学大学院 メディアサイエンス研究所 教授	三淵 啓自

【運営委員候補】(敬称略、社名50音順)

(留任)

アドソル日進株式会社	先端 IT 技術センタ	荒本 道隆
株式会社イーグル	開発部	菅井 康之
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
インフォテリア株式会社	代表取締役社長/CPO	平野 洋一郎
ウルシステムズ株式会社	事業開発本部 マネージャー	芦田 尚人
株式会社 NTT データ	技術開発本部 サービスイノベーションセンタ 課長	高木 徹
株式会社NTTデータ経営研究所	ソーシャルイノベーション・コンサルティング本部 社会システムデザインチーム マネージャー	大林 勇人
株式会社ゼンリン	事業開発本部 ビジネス開発部 マネージャー	渋谷 健
日本ユニシス株式会社	アドバンスド技術部 マネージャ	牧野 友紀
ドリーム IT21	代表	田原 春美
株式会社日立ソリューションズ	技術開発本部 研究部	富山 全徳
ピースミール・テクノロジー株式会社	先端技術研究部	高岡 大介
富士通株式会社	計画本部 開発企画統括部 エキスパート	小森 斉
富士ゼロックス株式会社	コントローラ開発本部 コントローラプラットフォーム第二開発部 マネージャー	道村 唯夫
富士ゼロックス株式会社	コントローラ開発本部 コントローラプラットフォーム第二開発部	門馬 隆
PFU ソフトウェア株式会社	基盤ソフトウェア統括部 UX 技術部 部長	松山 憲和
リコーITソリューションズ株式会社	フェロー	飯沢 篤志

付属資料

第 4 期 (2013 年度) 活動のご紹介

～部会および協働プロジェクトの活動計画～

クラウド・テクノロジー活用部会

コンテキスト・コンピューティング研究部会

ビジネス AR 研究部会

ユーザーエクスペリエンス技術部会

ナチュラルユーザーインターフェース活用部会

(注: ネットデバイス アプリケーション部会の改変)

協働プロジェクト (Project LA)

先端 IT 活用推進コンソーシアム

クラウド・テクノロジー活用部会

■背景/活動目的

3年目は、配信が開始された気象庁の防災情報 XML を使ったデモシステムや、ProjectLA のバックエンド処理を行うサービスの開発を行いつつ、大量に蓄積したデータを有効活用するための「データ分析力」を身に付けるために、月例部会内でミニ勉強会を開催した。

この4年目は、部会名称を「研究部会」から「活用部会」に変更し、勉強会から研究部会時代に得た個々の技術を組み合わせで活用して、以下の活動に注力する。

・データをクラウド上に収集

- －入力データ(ProjectLA など)
- －センシングデータ
- －オープンデータ

・収集したデータを結合し、分析する

・分析結果を見える化する

これらを使ったデモシステムの構築を行う。

また、ProjectLA のために作成したサービスについても、一般公開に向けてのブラッシュアップ(特に性能改善)を含め、機能拡張を行う。

■活動計画

・情報収集

- クラウド関連の実装や技術に関する情報を収集する
- オープンデータの仕様や入手方法に関する情報を収集する

・プロトシステムの作成

- センシングデータやオープンデータを使ったシステムを試作する
- －収集、ジョイン、分析、統計処理、機械学習、見える化
- データをやり取りするための認証技術を試用する
- －OpenID.Oauth2
- －HSM(HardwareSecurityModule)

・ProjectLA のサービス運用

- ProjectLA で使用するバックエンドのサービスを改善・拡張する
- クラウドのインフラを使って、実際にサービスを運用する

・ProjectLA のデータ・収集したデータ・オープンデータの分析

- 実運用で蓄積されたデータを分析する
- 既存の ID プロバイダ

・ハンズオン形式での勉強会の開催

- サービスの作成や検証で得た知見・ノウハウを展開する

■活動成果

- ・調査報告書
- ・プロトシステムの作成
 - AITC 内公開
- ・ProjectLA のバックエンドサービスの構築
 - 設計書
 - ソースコード
 - 環境構築手順書

■活動方法

- ・月例ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・ハンズオン形式での勉強会の開催

■活動ロードマップ

- ・2013 年 09 月～12 月
 - ProjectLA のサービスのブラッシュアップ
- ・2013 年 12 月
 - ProjectLA の一般公開(予定)
- ・2013 年 09 月～02 月
 - センサーデータ、オープンデータの蓄積サービス作成
- ・2014 年 03 月～08 月
 - 蓄積したデータの結合・分析・見える化を行う
- ・2014 年 01 月～09 月
 - ProjectLA で蓄積されたデータの分析
 - 報告書の作成

■体制（敬称略）

- リーダー : 荒本 道隆(アドソル日進)
- サブリーダー: 上村 準也(キャノンソフトウェア)、菅井 康之(イーグル)

コンテキスト・コンピューティング(CC)研究部会

■背景

物事は、人の認知の仕方によって異なった価値や意味を持つ。

その価値や意味の違いは、対象とする物事と関連する物事の関係性の違い、つまり“コンテキスト”の違いに現れたりする。

IT を使って人がこのようなコンテキストを自由に扱えるようになったら、人々のコミュニケーションが深まったり、人々が協同し活動する成果がもっと豊かに なったりするのではないか。そんな思いでコンテキストをコンピュータで研究を行う。

この研究活動において、コンテキスト・コンピューティングとは関係性をデータとして記録し、活用する情報活動であり、対象とする関係性は人と人、人と物事、人と環境である。

■活動目的

近未来の情報社会をビジョンとして描き、コンテキスト・コンピューティングにより個人と社会のインテリジェンス (Social intelligence) が階層的に連動する情報基盤を提言する。

■活動内容

- コンテキスト・コンピューティングにより実現するビジョン「人と機械(コンピュータ)の協働による“情報の個人化”“社会知の形成”」の検討
- Project LA に参画し、コンテキスト・コンピューティングの基本となるデータ基盤のアーキテクチャ、計算アルゴリズムの研究と仮説検証を行う。
- コンテキスト・コンピューティング先行研究・関連研究の調査
- コンテキスト・コンピューティングの関連分野の調査と研究
 - オントロジー、セマンティック Web、LOD (Linking Open Data) など最新技術の調査
 - サービス工学におけるサービス・イノベーション・サイクルとコンテキストの研究
 - HCI (Human Computer Interaction) の再考

■活動計画

2010 年から 2012 年の 3 年計画により得た研究成果をベースラインにコンテキスト・コンピューティングのホワイト・ペーパーを作成し、先端 IT 活用推進コンソーシアム内外で発信する。また「人と機械の協働による社会知形成」をテーマに、2013 年から 2016 年の新たな 3 年計画を立案し、理論(アーキテクチャと計算アルゴリズム)⇒実装(プロトタイプ開発)⇒検証(ドメイン適用と効果検証)を実施する初年度と位置付ける。

■活動成果

- コンテキスト・コンピューティングに関するホワイト・ペーパー、技術論文
- コンテキスト・コンピューティングに基づくプロトタイプ・システム
- コンテキスト・コンピューティングに関する Wikipedia 記事

■活動方法

- 月次ミーティングでのディスカッション
- 関連技術識者によるセミナー実施
- オンラインでの記事執筆

■体制（敬称略）

リーダー：牧野 友紀（日本ユニシス）

サブリーダー：和泉 憲明（産業技術総合研究所）、小林 茂（個人）、

高岡 大介（ピースミール・テクノロジー）、陣内 康行（住友セメントシステム開発）

ビジネス AR(BizAR)研究部会

■背景

スマートフォン・タブレットが普及し、今後はゴーグルグラスのようなメガネ型デバイスや、キネクトやリープモーションのようなジェスチャー入力デバイスも普及が期待されている。その状況において、人間の五感の拡張（視覚だけでなく聴覚や触覚など）や IT と人間が一体となった技術（人間も含めた総連携）として、AR の活用推進が、さらに求められている。

前年度から議論しコラムも執筆している「AR 産業論」をベースに、AR によるビジネスの変革や拡大に向けて研究活動を加速させていく。我々は「ビジネスを AR で変革する領域をビジネス AR」と定義している。

■活動目的

最先端の AR 技術の把握と習得およびビジネス推進力のある AR 適用方法・実装方法について研究することを活動目的とする。さらに活動成果を発信していく。

■活動内容

前述の活動目的を達成するため、下記の活動を行う。

- 1) ビジネス AR を創出するための考察・議論・グループ活動
- 2) AR 技術への理解を深めるためのプロトタイプ開発・試行実験
- 3) 上記活動を成果物としてまとめ、外部発信の活性化

■活動計画

前述の活動目的を達成するため、今までの部会活動を鑑みて 2013 年度は下記の活動を行う。

- 1) 聴覚 AR をコミュニティ活動にどう活用するかを研究、HMD を使ってセカンドライフ上で会議、20 年後の「読書」をイメージアップなど
- 2) 空間 OS 開発、簡易フォースフィードバックグローブ開発、LA ブラウザ開発継続とそのための新技術の習得など
- 3) 「AR 産業論」書籍化、2013-2014 年 1 年の AR 関連情報アップデート、タッチ&トライ開催、コワーキングスペース活用、わいオフなど

■活動成果

- 1) 「AR 産業論」をベースとして、新たな議論を展開
- 2) 技術トライアル成果物の公開
- 3) 各種セミナー資料、月例会議事録及び参考資料

■ 活動方法

- 1) 月例会の開催
- 2) SNS 等を利用した意見交換や技術情報の交換、トライアル開発
- 3) 技術等の最新動向等を伝えるための内部講師によるイベントの開催(不定期)

■ 活動ロードマップ

考察・議論などは通年を通じて継続し、プロトタイプ開発・試行実験の一例は以下のスケジュールで進める予定。

- ・2013年9月～12月 構想・設計
- ・2014年1月～5月 試作・修正
- ・2014年6月～8月 評価・成果物化

■ 体制（敬称略）

リーダー : 大林 勇人(NTTデータ経営研究所)

サブリーダー: 中川 雅三(日本総合システム)、吉田 光輝(日本ユニシス・エクセリューションズ)

ユーザーエクスペリエンス(UX)技術部会

■ 背景

ITシステムが、その機能面での優劣を競うだけの時代から、利用者にとって、どんな価値や経験を提供できるかが重要視される時代へと変わってきた。また、ユーザーエクスペリエンスを高めることは、コスト削減あるいは売上拡大というビジネス面からも重要性が増している。

しかし、優れたUXを提供するITの実現には、先進的なUI技術やグラフィックデザインだけではなく、使い易さを追求するための人間工学や心理学、社会的あるいは文化的な状況への洞察など幅広い知識と経験が必要であり、一朝一夕に実現できるものではない。このような状況の中、UXデザインプロセスとして様々な手法やツールが提供され体系化が進められてきている。加えて製品単体のUXだけではなく、広い意味でのサービスを含めた、サービスデザインについても研究が進んでいる。

■ 活動目的

UXデザイン/サービスデザインプロセスの実践を通して、利用者に、より良い体験を提供するITシステムとは何かを探究する。

UXデザイン/サービスデザインプロセスの実践・評価によって得られた知見を広く提供していくことで、ITのUX向上に貢献していく。

■ 活動内容

UXデザイン/サービスデザインプロセス

UXデザイン/サービスデザインプロセスで活用できるツールや手法の研究と実践を行う。

更に並行して

- ・UX に優れたアプリケーションや IT システムの事例研究
 - ・近未来 UX の検討
- を行う。

■活動計画

- ・2013 年 9 月～2013 年 12 月：安否確認アプリのユーザビリティ評価、および改善
SystemLA 連携、および一般公開を目指す
- ・2014 年 1 月～2014 年 4 月：サービスデザインプロセスの研究
外部講師によるセミナー、ワークショップ開催
- ・2014 年 5 月～2014 年 8 月：サービスデザインプロセスの実践
安否確認アプリを含めたサービスデザインの実践
安否確認サービス→待ち合わせサービス(普段使い化)
→ex)東京オリンピックの海外観光客をターゲットに

■活動成果

- ・安否確認アプリ 開発までの UX デザインプロセス成果物
- ・待ち合わせサービス開発におけるサービスデザインプロセス成果物

■活動方法

- ・Face2Face ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

■体制（敬称略）

- リーダー：松山 憲和(PFUソフトウェア)
- サブリーダー：原 孝治(ディーディーエス)

ナチュラルユーザーインターフェース(NUI)活用部会(仮)

■背景

高度化・多機能化が進むことによって操作が複雑化した IT 機器を誰でも簡単に取り扱えるものにするための取り組みとして、人間の五感や、人間が自然に行う動作によって機械を操作する、いわゆるナチュラルユーザーインターフェース(NUI)の利用が広がっている。

既に、我々の日常生活の中に深く浸透しているスマートフォン、タブレット端末、スレート端末などのネットデバイスでは、タッチ操作や音声認識・応答といった、より人間的でより直感的なインターフェースがごく普通存在として欠かせないものになっており、また、エンターテインメント分野はもちろんのこと、医療や製造の現場においてもモーションセンサーを介した IT 機器の操作

への取り組みが進みつつある。さらに、新しいデバイスが出現することによって、これまでとは異なる利用シーンやアプリケーションへの可能性が徐々に生まれてきている。

■活動目的

NUI の特性を最大限に引き出し、より身近に使えるものとするべく、調査・検討・プロトタイプ開発を行う。その活動を通じ、直感的で誰もが使いやすいインターフェースとは何かを探究し、ビジネスやサービスにおける様々なアプリケーションの利便性の向上に貢献していく。

■活動内容

- ・NUI デバイスの技術仕様や導入事例の調査に基づき、
- ・様々な業種における NUI の活用シーン
- ・これまでのユーザーインターフェースに不足しているもの
- ・より優れたインターフェースの在り方
- ・これから求められるであろう新しいインターフェース
- ・NUI によるユーザーエクスペリエンスの向上を考察し、
- ・より直感的でより身近に使えるアプリケーションの開発を行う。

■活動計画

- ・2013 年 9 月～2013 年 12 月 NUI 技術及び事例の調査
外部講師を招いての勉強会
- ・2014 年 1 月～2014 年 6 月 アプリケーションの試作
- ・2014 年 7 月～2014 年 8 月 ユーザビリティ調査の実施
アプリケーション開発を通じて得られた知見の取りまとめ

■活動成果

- ・NUI を活用するためのデザインアプローチ
- ・NUI を活用したアプリケーション
- ・NUI の活用によってもたらされるなにか

■活動方法

- ・Face2Face ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

■体制

リーダー、サブリーダーは部会メンバーの互選をもって後日選出

協働プロジェクト(Project LA(Leads to Action))

■活動テーマ

「知識から行動へ(Leads to Action)」。 「単に頭に入っている情報や知識に価値がある」状態から、「情報や知識を活用して行動し、日常生活に活かすことに真の価値がある」との考えに基づき、収集した情報を知識化し、行動を促す・行動を引き起こす仕組み作りを目指す。また、2011年3月11日の東日本大震災の経験から、平常時に使い慣れ非常時に活用できるシステムの在り方も模索する。

Project LA (Leads to Action)



収集した情報を知識化し、行動を促すシステム

Internet等のビッグデータに人々が意味付けし、機械的に整理・分析することで、個人化した知識を提示し、一人一人の行動を促す



Copyright © 2012 Advanced IT Consortium to Evaluate, Apply and Drive All Rights Reserved.

10

■活動目的

1. 一つのテーマのもとに、部会が集結・連携し、プロトタイプを構築することで、先端ITの有用性を検証、評価する。
2. 会員に先端ITに関するスキルやノウハウ習得の場を提供する。
3. 構築後のプロトタイプを一般公開し、試用してもらうことで、先端ITの有用性を世に広く訴求し、利活用推進の一助とする。

■活動内容

システムは状況の異なる一人一人が適切な行動を取るために、一般的なビッグデータを自分への影響が分かる個人化した情報に変換して提供するプロトタイプ・システム「System LA」(参考 1)を開発し、先端IT活用推進コンソーシアム内外で段階的に公開し効果を検証する。

各部会は Project LA に参加し、各部会の研究・調査領域に関連する役割を担い、System LA の開発と検証を行う(参考 2)。

■これまでの成果

System LA α3

関心事を中心とした RDF データベースサービス、及び、汎用クライアント

AR 技術を活用した LA クライアント

帰宅困難者を想定した安否確認アプリケーションの設計

コンソーシアム内実証実験

2013 年 4 月より、コンソーシアム内にて、避難訓練(帰宅困難者支援、風水害避難)を 4 回開催し、評価・検証を実施。繰り返してシステムをブラッシュアップしてきた。

専門家からの評価

避難訓練に参加した防災科学技術研究所の東 宏樹氏から、「課題はあるが、今まで解決できなかった着眼点であり、防災に貢献する可能性を感じる」

産業総合技術研究所の和泉 憲明氏から、「整理されていない巨大な情報群を、人間と計算機が力を合わせて、社会知として活用できるようになるだろう。」

■課題と対策

課題

スケジュールの遅延

参加者間のコミュニケーション

「一般公開」の認識レベルがバラバラ

対策

体制を見直し、部会リーダーとプロジェクトの取りまとめ役を分離

主体的な活動参加/成果提供がしやすい環境づくり

計画の再立案(反復/漸進的なプロセスの採用)

一般公開の考え方の整理と展開

■活動計画

- | | |
|------------------|---------------------------------------|
| ・2013 年 10 月 4 日 | 総会 Project LA の活動報告(System LA α3 のデモ) |
| ・2013 年 11 月上旬 | 合同部会における、System LA を活用した避難訓練実施 |
| ・2013 年 12 月下旬 | 合同部会における、System LA を活用した避難訓練実施 |
| ・2014 年 1 月下旬 | Ssystem LA の次期バージョン(α4)の開発項目策定 |
| ・2014 年第一四半期 | コンソーシアム外部との、System LA を活用した避難訓練実施 |
| ・2014 年 3 月頃まで | 新たなシナリオ/ユースシーンの開発 |
| ・2014 年第二四半期 | コンソーシアム外部との、System LA を活用した避難訓練実施 |
| ・2014 年 8 月下旬 | 年次活動報告の作成と次年度の計画策定 |

- ・時期未定 LA ブラウザの開発
- ・時期未定 安否確認アプリケーションの開発
- ・時期未定 新機能の検討
(外部データ用の、基盤環境強化、計算アルゴリズム)

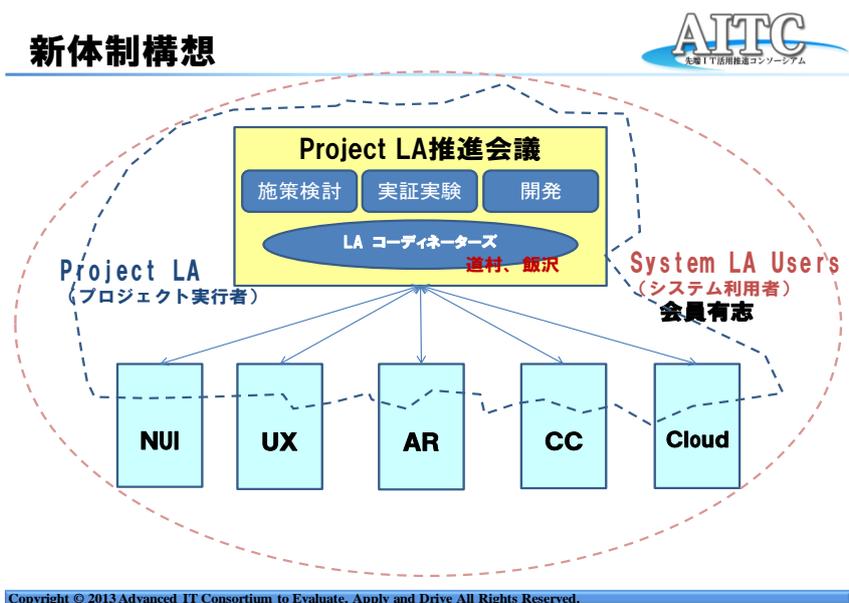
■活動成果案

- ・実証実験評価報告書
- ・System LA プロトタイプ / ソースコード
- ・各部会の調査・研究報告書

■活動方法

- ・LA コーディネーターズを取りまとめ役とした Project LA 推進会議による運営と推進
- ・各部会による System LA 担当分野の開発・成果提供

■体制

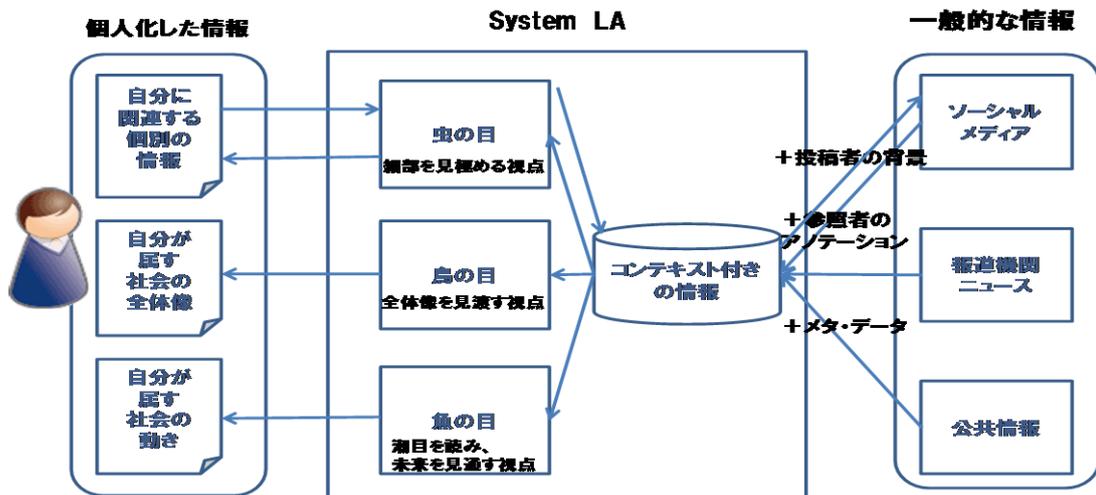


別紙： 参考1 「System LA の概要」

参考2 「各部会の担当領域」

【参考1】 System LA の概要

システムは状況の異なる一人一人が適切な行動を取るために、一般的なビッグデータを自分への影響が分かる個人化した情報に変換して提供する。



【参考2】 各部会の担当領域

- A. アーキテクチャ策定と全体システムの設計: コンテキスト・コンピューティング研究部会
- B. UX デザインと実装 : ナチュラルユーザーインターフェース活用部会
(ネットデバイスアプリケーション部会からの改変)
ユーザーエクスペリエンス技術部会
ビジネス AR 研究部会
- C. ビッグデータ蓄積と検索・分析 : クラウド・テクノロジー活用部会

